



# 歴史に学ぶ 地域の先進医療

佐賀藩は日本の近代医学の発達に大きく貢献しました。  
その意義を明らかにしながら、佐賀県の地域医療のありかた、特に肝がんに  
対する官民の取り組みについて歴史に学びつつ、考えていきます。

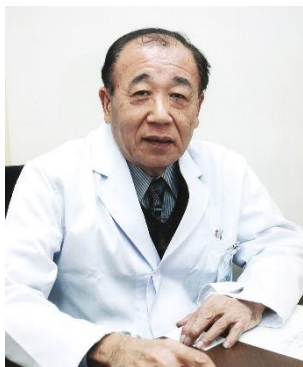


「種痘の図」(好生館提供)

平成26年11月1日(土)

「アバンセ」ホール 13:00~16:30

## 1 基調講演 「なぜ佐賀に肝がんが多いのか？」



(佐賀新聞社提供)

佐賀は、地域医療の先進地です。鍋島藩は、いち早く西洋医学を取り入れ、特に  
種痘接種は藩を挙げて取り組んだとされています。さらに、筑後川流域における日本  
住血吸虫の駆虫対策にも積極的に取り組み、その結果、日本住血吸虫による肝  
硬変死亡は1960年代にはほぼ消失したとされています。

しかし、その低下に伴い、C型肝炎ウイルス肝がん死亡者数は増加しています。

C型肝炎ウイルスはなぜ拡散したのか、複雑に絡み合うその要因について、地域  
医療の観点から、一緒に考えてみましょう。

講師: 溝上 雅史

((独) 国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター長)

## 2 パネルディスカッション

〈パネリスト〉

- ・溝上 雅史
- ・江口 有一郎 (佐賀大学医学部教授・肝疾患センター長)
- ・古川 次男 (佐賀県医療統括監・がん対策総括監)
- ・才津 文子 (臨床心理士・看護師)

〈コーディネーター〉

- ・青木 歳幸 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター特命教授)



「医業免札姓名簿」  
(好生館提供)



定員：300名 (事前の申し込みは不要です。)



放送大学佐賀学習センター

佐賀市天神3丁目2-11 (アバンセ4階)

TEL: 0952-22-3308

FAX: 0952-22-3398

Eメール: saga-sc@ouj.ac.jp